

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [東洋女子高等学校] 担当教諭名 [村山 祐己] (2年 150名)

相手国・地域 [クロアチア]

海外学校名 [Privatna sportska i jezikna gimnazija Franjo Bučar] 担当教諭名 [Petra Zenic]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な探究の時間 その他	アートマイルプロジェクト	37

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	格差のない、笑顔溢れる世界へ
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	世界中で困っている人に手を差し伸べよう、そして幸せの輪を広げよう。 ・すべての人に質の高い教育を ・平等で公正な権利と自己選択の権利 ・平和に暮らせる優しい世界に



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・学習、広報、交流、壁画の4部門すべてが年間の活動の中で、何かしらの活動の中心となって担当することができ、テーマ学習～壁画制作までの流れを4部門で継投することができた。 ・過年度に比べ、学年全員でターゲットについてより深い学習をすることができ、グループワークを通して、積極的な意見交換ができた。 ・英会話が得意で、意欲的な生徒が多く、ビデオ会議の際に、英語で瞬時にレスポンスを行うことが積極的にできた。 ・過年度は壁画を担当する生徒で考えていたメッセージに含みたいキーワードやモチーフのアイデアを学年全員から募集し、メッセージや壁画制作の際、学年全員の意見を融合するよう取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全員での参加のため、全ての活動に全員が関わり、全員で取り組むというのが難しく、活動内容によっては、リーダー以外のメンバーや、担当部署でない活動への意識や責任感に温度差が生まれてしまう場面があった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の担当する役割に対しての責任感や行動力が活動を行うごとに芽生えていったように感じる。 ・ゴール16が難しいテーマではあったが、公正の達成とそれが困難である現状について調べ、自分たちにできることは何かと自分事としてとらえることができていた。 ・相手国に対して、異文化を尊重しながら、親しみを込めてともに活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員もそれぞれの4部門に振り分けられており、学年全体の活動や各部門の活動に対して、協力的に参加していた。今年度の反省や来年度に活かすべき点も上がっているため、学校、学年全体で取り組むにあたって意識が高まっていったように感じる。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 ～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・フリー・ザ・チルドレンジャパンの方をお招きし、ゴール16とゴール8について出張講義を行って頂いた。 ・夏休みを利用し、学習リーダーが中心となってゴール16とゴール8の各ターゲットについて14グループで分担して調べ、世界の現状と解決策をスライド資料にまとめた。 ・夏休みに作成した資料を、広報担当者が動画にまとめ、視聴し、投票を行った。ゴール16とゴール8について各投票で選ばれた動画のテーマをより深く学習することに決定した。ゴール16は、「発展途上国では、法律が機能しておらず、公正な裁判が行われていない」、ゴール8は、「児童労働」というテーマについて学習することになった。 ・総合的な探究の時間で、ワークシートの発問に答えていく形式で、上記の2つのテーマの現状を、グループワークで調べたり話し合ったりしながらより詳しく学習した。 ・解決策は、自分たちができることについて企画書を考えるという方式でワークシートを利用し、グループワークを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出張講義は、ワークショップ方式だったこともあり、SDGs全体はつながっていて、一つの問題を解決するためには様々な部分が連鎖するという点を改めて可視化した状態で理解することができた。 ・情報の行き違いにより、グループによってはうまくいかない部分もあったが、学習リーダーがグループのメンバーと連携をとって調べ学習の分担を行い、グラフなどの数値データを用いながら、問題点と解決策を考えて協力して資料にまとめることができていた。 ・ゴール16の「発展途上国では、法律が機能しておらず、公正な裁判が行われていない」については、ゴール16が戦争や平和に対して焦点があたりがちではあるが、世界では、公正ではないことも多く課題となっているという現状を理解し、新たな気づきや広い視野を持つことができた。 ・テーマ学習のグループワークでは、それぞれの発問に対して、話し合いながら、自分たちの意見をまとめることができ、世界での現状と、なぜ、世界ではこのような問題が起こってしまうのかという背景、要因を考えることができた。 ・解決策の提案では、自分たちが身近にできることを実現可能な形で企画するにあたって、より自分事として、解決にあたってすべきことを詳細に考えることができた。 	探究8 夏休み5 放課後2

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
共有 相手と意見交換	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ学習のワークシートで調べたり考えたりした内容と、解決策の企画書で発案した内容を、交流リーダー、交流担当者がスライド資料にまとめた。 ・交流リーダー、交流担当者がZoom会議に参加し、スライド資料の発表や相手国との意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoom会議前に、事前学習でクローチアについて調べ、質問したいことをしっかりと準備することができた。 ・Zoom会議では、相手国の文化や生活、考えの違いを新たな発見として大いに吸収することができ、相手校の生徒との会話を楽しむ様子も見られた。 ・英語が得意な生徒を中心に、意見交換や議論を積極的に行い、考えを深めることができていた。 	放課後3
融合 メッセージ作成	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全員が、「発展途上国では、法律が機能しておらず、公正な裁判が行われていない状況」や「児童労働」が起こる要因や解決するために必要なことを考え、そこから導き出される、メッセージに込めたいキーワードを選出した。 ・壁画リーダーで、学年全員が選出したキーワードから、「発展途上国では、法律が機能しておらず、公正な裁判が行われていない状況」や「児童労働」を解決するために込めたいものを選び、メッセージを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用し、これまでのテーマ学習を思い出しながら、なぜ起こってしまうのかという問いに対して、悩みながらも、自分の結論を導き出すことができていた。 ・キーワードを融合しながらメッセージを作るにあたって、一つ一つの言葉が持つ意味や、助詞によって変わる文の印象について、皆で議論しながら、丁寧にメッセージの作成を行っていた。 	探究2 放課後3
創造 壁画制作	10月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画アーティストの方によるワークショップ ・学年全員でモチーフの発案 ・壁画リーダーでモチーフの選定とデザインの考案 ・壁画の制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップでは、海外で壁画を描き、活躍されているミヤザキケンスケさんに経験談や壁画への想いを話していただき、学年全員で一つの作品を作り上げる過程を経験し、作品を作る楽しさ、個性を活かしながら調和することの大切さ、共同制作の意義について学ぶことができた。 ・モチーフの発案は、キーワードの選出と同時に行ったが、自分が出したキーワードに連想されるモチーフを絵におこしていたため、相違も生まれにくく、様々なアイデアが生まれていた。 ・デザインの考案では、学年全員のアイデアから、メッセージに合わせて込めたいモチーフを話し合い、どのデザインも魅力的で悩む部分も多かったが、相手校から提案があったデザインを融合させ、またお互いの国の文化を表現したいという自発的な提案もしながらデザインを決定させることができた。 ・壁画制作では、壁画リーダーを中心に、各々自分の役割を見つけ、協力しながら色塗りを行い、完成させることができた。 	探究2 放課後4

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
評価 振り返り 自己評価	1月 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・『『平和と公正をすべての人に』を達成するには何が必要だと思いますか。また、それを実現するためにあなたはどのような行動をしていけばよいか。』というテーマで、年間のまとめとして、小論文を作成 ・振り返りのルーブリックの作成 ・お礼のビデオメッセージ作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の活動を振り返りながら、自分がどんな力をつけることができたのか、どこまで目標に対して達成できていたのかを考え、文章化してまとめることができていた。 ・短い時間の中で、交流リーダーを中心に、伝えたいことや動画のアイデアをまとめていた。クロアチアの生徒への親しみを込めながら、グループごとに個性あふれる動画を作成していた。 	探究8

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	相手国の文化や考えに関心を持ち、意欲的に調べることができていた。Zoom会議でも、お互いの生活について興味深く聞き、質問しながらお互いの文化を尊重することができていた。壁画のデザインにも、クロアチアの花や国旗のデザインが融合されていることに関心を持ちながら鑑賞していた。
主体的に考え行動する力	4	グループでの活動において、それぞれの担当者が自分の役割を自覚し、行動することができていた。グループごとに積極的に意見を出して話し合いながら協力して活動をすることができていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	ゴール16「発展途上国では、法律が機能しておらず、公正な裁判が行われていない状況」やゴール8「児童労働」のテーマ学習では、客観的な数値データを多くの生徒が調べていたり、グループワークでの積極的な意見交換を通して、自分の考えを客観的に整理したりすることができた。 メッセージの作成では、言葉の持つ意味や伝わり方に向き合い、疑問や反対、提案といった様々な意見を積極的に出して議論ができていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	Zoom会議を通して、共通の話題で異国の同年代の学生との会話を楽しむ力を育むことができた。自身の英語が伝わるかどうか感じている生徒もいたが、コミュニケーションをとって行く中で、相手のことをより知ろうとし、積極的に英語を話そうとしていた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	学年全員から出た意見について、バランスを取りながら融合していき、自分たちの思いをさらに良いものとして形にするにはどうしたらいいか丁寧に議論しながら、メッセージや壁画のデザインを考えることができ、とても思い入れのある作品に仕上げることができた。